

活動支援団体名	認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ	作成日	2025年3月6日～2025年3月28日
活動支援担当者名	町田、宮、中谷	支援期間	2025年2月～2027年2月
支援対象団体名	こどもまんなか居場所ネットワーク沖縄	2年後の目指す姿	・沖縄県内に参加団体と呼び掛ける事が出来るような団体となる ・現在のメンバーでビジョンをしっかりと固めて新しいメンバーを迎え入れる事が出来る状態となる
支援団体担当者名	山下、池原		・社会への発信ができる ・法人化した状態での事業の受託と実施ができる

No.	実施内容	スケジュール	実施主体	期待する結果（支援対象団体）	期待する結果（むすびえ）	関連する短期アウトカム
1	コミュニティオーガナイズング研修	2025年7月	むすびえ	・参加者が相互理解をし、ネットワークの役割、使命感が決定できている ・他団体が一つの目的を持って活動するため、お互いを知り合う手法を学びあえる環境が整っている	・メンバーがそれぞれの想いやストーリーから、チームの想い・ストーリーを形成し、誰もが「まんなか」としてのストーリーを語れるようになる ・まんなかネットとしてのビジョン・ミッションの策定や戦略作りに役立つ情報が得られ、コミュニティオーガナイズングの手法がメンバーの共通言語になる	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
2	広報・FRセミナー、戦略策定伴走	2025年10月、11月	むすびえ	・団体としての周知がスタートできている ・県内の単独居場所（子ども食堂）が相談できる団体として名乗りをあげることができる	・まんなかネットがビジョン・ミッションを達成するために必要な関係者に情報を届けることができる ・まんなかネットに対して参加・応援・協力などの形で関わるアクターが増える（具体的な対象者や数値目標はまんなかネットと検討）	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
3	ファンドレイジング専門家による伴走支援	2025年11月～2026年3月	むすびえ	・立ち上げに伴い資金ゼロからのスタートにプラスになっている ・ネットワーク運営方法について手法が見出されている	・ネットワークのビジョン、ミッションから導かれた組織体制や必要な仲間（支援者、協働者、会員）と資金（助成金、委託、寄付、事業）の獲得に向けて前進している状態 ・団体のファンドレイジングのレベルが上がっている状態	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
4	基盤整備セミナー開催	2026年2月、9月	むすびえ	・組織基盤についてメンバー内で共通理解ができている	・年度計画づくり、目標設定、業務フロー整備、リスク管理、会計システムなど、自走に向けた組織基盤強化・機能に向けて必要なものが認識できている	支援対象団体が実行団体として応募するため事業運営が適切になされ、実績が証明できている状態
5	未来対話ワークショップ	2026年12月	むすびえ	・各団体の情報交換を行い、連携できる関係機関の共有や各地域の特色をもった支援方法を共有している	・各ステークホルダーが地域の未来に対しての理想の姿を共有し、その未来を近づくために各々の担いたいことをイメージできている状態 ・各ステークホルダーが他のステークホルダーの理想の未来や担いたいことを感じ、連携をとりやすい関係性が築けている状態	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
6	学びあいプラットフォーム	2025年4月以降	むすびえ	・他府県のネットワークとの交流により、先進事例や成功事例を学ぶことができる ・他府県への視察研修など連携が取れるようになっている	・地域を越えたつながり（オンライン・対面）によって、好事例などの情報共有や相互にモチベーションを高められる関係性ができている	学びあいプラットフォームを通じて全国の市町村NWにも学びや知見が波及し、新たな地域NWが立ち上がり始める状態
7	法人化／団体ビジョンづくり	2025年秋頃申請目標	支援対象団体	・団体に現在加入しているメンバーの相互理解が進み、団体としてのビジョンを提示できる状態になっている ・定款が出来、法人化手続きを行える状態になっている	・団体の存在意義をメンバーが強く意識して行動できる状態 ・NWとしての行動に迷った時に立ち戻れる道標ができている ・成し遂げたいことにつながるための法人格が明確になっており、準備が整っている状態 ・団体の存在意義が社会に伝わるビジョンができている状態	支援対象団体が団体として実行団体になれるだけの自律的な運営・ガバナンス／コンプライアンスの整備ができており、NWとしての運営体制が確定している状態
8	キックオフ内部研修	2025年4月29日	支援対象団体	・ストレングスファインダーを活用したチーム内メンバーの相互理解と交流ができている ・チーム内メンバーの強みを取りまとめることで団体のミッションが見えている	・ネットワークに参画するメンバーが相互に特性把握をすることで、より良いチームビルディングができている ・参画メンバーが何を期待してネットワークに参加しているかを把握し、より良い団体ビジョンづくりにつなげる	支援対象団体が団体として実行団体になれるだけの自律的な運営・ガバナンス／コンプライアンスの整備ができており、NWとしての運営体制が確定している状態
9	こども向けイベント（まんなかお披露目）	2025年10月頃1～2回/年度	支援対象団体	・団体交流大運動会＆発表会 ・各団体で実施している文化芸術活動や音楽などの発表と運動会を実施する ・参加団体同士の交流を目的としたイベント ・こどもの居場所を利用していない市民の方にもこどもの居場所がどんなところかを知ってもらえるような機会になるように利用していない方でも楽しめるイベントを実施する	・沖縄の居場所運営者や関係者が集まる（参加人数目標などはまんなかネットにて検討） ・参加者にまんなかネットの存在ややりたいことを理解してもらい、「関わりたい」と思ってもらう（アンケート等での測定を想定）	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
10	居場所向け交流会	2025年秋以降1～2回/年度	支援対象団体	・交流会を中心とした研修を実施する	・沖縄の居場所関係者に交流会について認知・参加してもらい（参加人数目標などはまんなかネットにて検討） ・現在県社協などで企画されている連絡会とは異なる目的・価値のある場を提供し、参加者に「参加して良かった」「また参加したい」と感じてもらう（交流会を通して県社協との役割分担のさらなる明確化がなす）	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
11	中間支援機能の整備	2025年秋以降から随時整備	支援対象団体	・加入団体で中間支援団体としての動きを検討する ・中間支援団体としての活動に参加出来る団体と参加出来ない団体の意思確認を行う（中間支援の経験を持っている団体中心に組み立て、その後意思確認）	・こども食堂などの居場所に、寄付や物資、情報などが届くためのハブになっている ・地域特性に応じた、互いに顔の見える関係性ができている	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態
12	自走に向けた組織基盤強化・機能の整備	2027年2月まで	支援対象団体	・事業を受託しに行くときの団体としての意思決定基準を設ける ・会費や寄付金などをどのような目的で集めるのかを決める ・必要な経費の洗い出しと目標設定 ・必要な機能の明確化	・関係機関に団体として信頼される水準の組織基盤が整備され、それを対外的に示すことができる	支援対象団体が広報FRの基礎を体得し、団体の強みや課題が整理されてドナーピラミッドの作成や中期計画アクションプランの策定など中間支援団体として運営資金を獲得するための戦略が策定されている状態
13	ガバナンス強化	随時	支援対象団体	・ガバナンス・コンプライアンスの設置 ・作業ではなく、なぜガバナンス・コンプライアンスが必要なのかの勉強会実施 ・一つの団体では取り組めない相談があることも想定したシュミレーション研修の検討 ・ガバナンス窓口の設置、加入したこどもの居場所から広く相談を受け入れるかなどを整備 ・民間のガバナンス外部相談窓口としての機能検討（有料メニューにすることも視野に検討）	・「意思決定のルール」、「理事・監事・職員などの役割分担や責任」、「情報公開や説明責任」の方法などが明確になっている状態 ・規程・事務手続きが整備され活用されている ・リスク管理のフローが定められており運用されている ・会計・総務のシステムが整っており業務が効率的に行われている ・組織内情報共有システムが整っておりコミュニケーションが円滑に行われている	支援対象団体が団体として実行団体になれるだけの自律的な運営・ガバナンス／コンプライアンスの整備ができており、NWとしての運営体制が確定している状態
14	内部連携・共有会議	定期開催	支援対象団体	・月に1度の定期開催 ・随時課題をlineグループで協議する	・合意した意思決定の方法に従い、まんなかネットとしての意思決定と活動の推進がなされる ・県社協等関係者との情報連携を行い相互に補完し合える関係を強化する	支援対象団体をハブに、こども食堂運営者や地域のステークホルダーが連携している状態